

第3回広島県総合計画審議会 議事録

- 1 日 時 令和7年8月28日(木)午後2時00分から3時30分まで
- 2 場 所 広島市中区基町10番52号
広島県庁北館2階 第1会議室及びweb
- 3 出席委員 芦谷会長、石原委員(web)、伊藤委員長、加藤委員、金澤委員、
神田委員(web)、木下委員、小池委員、牛来委員、早田委員、
高場委員、田中委員、林委員、日高委員(web)、百武委員(web)、
フंक委員(web)、本多委員、松村委員(web)
- 4 議 題 安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン改定の骨子案
- 5 担当部署 広島県総務局経営企画チーム地方創生担当
電話：(082)513-2396(ダイヤルイン)
- 6 会議の内容(議事要旨)
【安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン改定の骨子案】
事務局から、安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン改定の骨子案について、資料1により説明

(委員)

- ・ 今回の改定で重要なポイントは、ビジョンの骨格のコアとなる概念をどこに置くか、つまり、何を最も中心的な概念にするかだと思う。今回は「シン・ファミリーフレンドリー “家族で暮らしやすいまちは、誰もが暮らしやすい”」が重要になると思っているが、家族という単位を中心概念に置くのが良いのかということが論点になると思っている。家族にとって優しいということが、単独世帯にとって優しいかどうかということが明確でないことから、家族というものが、統合概念になりにくいのではないのかというのが大きな問題点だと思う。つまり、外国人や高齢者、結婚しない方、多様な性別の方がいる中で、家族を中心概念に置くのが良いのかというのが論点だと思う。
- ・ 二つ目は、県民という概念をどのようにするかである。一義的には、住んでいる人を県民と定義しているが、これだけIT化が進み、働き方が多様化している中でも、広島から出ていくと、県民ではなくなってしまうことから、問題だと言われている。今はまだ制度化されていないが、関係人口の延長線で、第二住民という考え方あるのではないかとわれ始めており、何らかの関わりがある人を住民として定義しても良いのではないかと個人的には思っている。そうすると、県民の概念を、住んでいる人だけではなく、出て行った方や、広島のことを好きである方など、広島と何らかの関わり方を持ちたいという方に、第二県民になってもらい、いろんな働き方を許容して、様々な恩恵を広島に与えてもらうという流れを作った方が良いのではないかと個人的には思っている。IT化がこれだけ進んでおり、働き方の多様化や、ダイバーシティが進んでいる中で、外に出ていった方を排除していくというのは、あまりにも前近代的というか昭和的な概念ではないかと思っている。

(事務局)

- ・ 「ファミリー」というのは何を指しているかということ、一義的には、共働きで子供がいるような家庭を想定している。このような家族は、仕事と家庭の両立に向けて、社会の支えや気遣いが必要であると思うし、外出した時に小さな子供がいたら、周囲の人が配慮するといった社会にならないといけない。また、子育て家庭に対しては、より多くの気遣いをしていかないといけないため、まずはファミリーに対して住みやすい社会の実現が必要であり、それができれば、単身世帯や高齢世帯などの方も、住みやすい社会になるのではないかという考え方のもと、「シン・ファミリーフレンドリー」を打ち出すこととした。
- ・ 二点目については、人口減少が進むことで、経済活動の縮小や地域の担い手不足が生じることから、本県の社会経済に非常に深刻な影響を与えるということが想定される。そのため、まずは広島県に住んでもらうということが重要と考えており、より暮らしやすい広島県を実現させていくということを念頭において、ビジョンの改定作業を行っている。そのため、目指す姿の実現に向けた、今後5年間の方向性として、「シン・ファミリーフレンドリー」を設定し、県外の方にとっても、魅力的な広島県となるよう取り組みたいと考えている。
- ・ また、「シン・ファミリーフレンドリー」は、17の施策領域すべてを包むものとしている。それぞれの施策領域の中には、遠方に住んでいても、広島県に知識やノウハウを提供していただけるような方々の拡大を図る取組というの也被含まれている。今の骨子の段階では、十分に伝わってないところがあるので、素案を整理していく中で、記載したいと考えている。

(委員)

- ・ 福祉の様々な課題に対応している立場から、この「シン・ファミリーフレンドリー」に注意すべき点があるのではないかと考えている。大きな課題として、人口減少対策があり、ファミリー層に定住してもらうことや、新たなファミリーを呼び込むということは大事である。ただ、前提とされている「家族に暮らしやすいまちは、だれもが暮らしやすい」ということについて、確かに共通点がたくさんあるのも事実ではあるが、国の地域共生社会のあり方検討では、今後増えていく、身寄りのない高齢者の方々について課題がピックアップされており、その点では、ファミリー層とは異なる状況があるという現実もあり、少し飛躍し過ぎているという印象を受けている。
- ・ 「ファミリー」から受けるイメージというのは、様々な受け止めが違うと思うが、3人以上の世帯のイメージがあり、少なくとも単身世帯は思い浮かばないと思う。単身世帯が全体の4割に迫るという状況の中、このフレーズだけが切り取られると、共感を得にくくなってしまっているのではないと思う。また、そうした方々が疎外されているような受け止めになりかねないと心配している。
- ・ 「ファミリー・フレンドリー」は、もともと「ひろしま未来チャレンジビジョン改定版」で記載されており、今回復活させていると聞いた。「チャレンジビジョン」では、3つの視点があり、その中の1つとして「ファミリー・フレンドリー」があった。3つの中の1つということであれば、そこまで違和感はなかったが、今回見直しの視点に「シン・ファミリーフレンドリー」だけを据えて、方向性にするということになると違和感がある。丁寧に読んでいけば、ある程度は分かるが、もう少し誤解のないような説明をする必要があるのではないか。
- ・ 例えば、知人と暮らすファミリーや一人暮らしなど、多様なスタイルのファミリーがあり、そうした方々を、様々な形で地域住民が支えておられるので、その支える方々を含めた「シン・ファミリーフレンドリー」といった言い方もできるのではないか。
- ・ 加えて、現在は「シン」が流行っているが、5年後も同様に通用するのかどうかを危惧している。

(委員)

- ・ 「ファミリー」について、標準家族を想定しているのであれば、リスクの方が大きいという印象を抱いた。子供がいる家庭もあればいない家庭もあるし、同性同士で一緒に住んでいる方もいる中で、共働きで子供がいる家庭を「ファミリー」と想定していると県が言ってしまうと、古い観念に基づくと取られてしまうリスクが非常に高いのではないかと感じた。
- ・ 「シン・ファミリーフレンドリー」という言葉を最初に聞いた時には、エッジが立っていて良いかもしれないと思ったが、単身世帯やひとり親世帯、高齢世帯はファミリーではないと言うことになり、差別に近いことになってしまうのではないかと感じた。標準型のファミリーを想定して考えたものが、標準型ではない方も暮らしやすいというのは、非常にリスクが高い。標準的でない方も「ファミリー」だという言い方をしないと、非常に古めかしい目線になってしまうと感じた。

(委員)

- ・ 家族という定義がこれで良いのか、誤解を招くのではないかと感じた。様々な家族の形態がある中で、一定の家族概念を想定したというのは、あまり好ましくないのではないと思う。
- ・ また、「ファミリー・フレンドリー」という言葉について、一般的には「ファミリー・フレンドリー企業」として、仕事と家庭の両立支援を経営の基本に据えている企業のことを呼ぶと認識をしている。県の施策としてこの言葉を打ち出すのが適切なのか疑問に思っている。
- ・ 今後5年間で特に注力する重点項目について、4つの応援項目があるが、広島県の若者の流出状況を考えると理解できるが、バランスに偏りがあるのではないかと感じた。

(委員)

- ・ 私はある程度、尖らせてしまった方が良いのではないかと感じている。先ほど、「シン・ファミリーフレンドリー」の一義的なターゲットとして、共働きで、子供が一人二人くらいいる家族を設定したとのことであったが、それはどういう経緯で、どのような現状分析をされてターゲットにしたのかを伺いたい。

(事務局)

- ・ 「ひろしま未来チャレンジビジョン改定版」においては、「ファミリー・フレンドリー」という打ち出しを行った上で広島県の施策を進めてきた。現在の「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」においては、「ファミリー・フレンドリー」という言葉は使っていないが、そういった考えを持ちながら、施策に取り組んできた。今回の見直しにあたって、「家族が暮らしやすいまちは、誰もが暮らしやすい」ということをもう一度明確にし、社会情勢の変化が起きている中で、前回の継続ではなく、さらに「シン」化させるということで、このキーワードを使った。

(委員)

- ・ 今の話であるならば、「ファミリー」であるのは非常に危険だと思う。「シン・ファミリーフレンドリー」が良い、悪いではなくて、「シン・ファミリーフレンドリー」を通して、どういうまちを作っていくのが重要だと思っている。どういうまちにするかに対し、現状分析をし、未来を見据えた上で、ファミリーに対して事業をやっていくのであれば分かる。前のチャレンジビジョンにあった「ファミリー・フレンドリー」を取り敢えず持ってきたということであれば、それはすごく問題だと思う。「シン・ファミリーフレンドリー」を目指した結果、本当に行きたいところに行けるのかということに、疑問を感じた。
- ・ 私自身はファミリーをある程度尖がらせる方がいいと思っている。県のビジョンであり、色々な方々がいる中で、配慮は必要だと思うが、その結果、何の色もない施策になってしまい、

今と何も変わらないのかなと思う。

- ・ 他の都道府県から移住してもらうことで、人口を増やしていくというアプローチが一番短期的には必要になるかと思っている。そうした時に、他の都道府県と比較して、広島県に行けば家族として、どういう経験できるのか、どういう成長できるのか、どういう場があるのかということが明確に分からないといけないと思う。そういう意味で、ある程度尖らせないと何も変わらない施策になるのではないかと危惧している。ただし、その背景として、今の県の考え方には緻密さが欠けていると感じた。

(事務局)

- ・ 補足させていただくと、単純に前回のチャレンジビジョンで「ファミリー・フレンドリー」という単語を使っていたから、今回復活させたというわけではなく、先ほど説明したように、家族というものに対して、皆で支えていかないといけない、配慮していかないといけない。家族が住みやすい社会になれば、単身世帯、高齢世帯も含めて、暮らしやすい社会になるのではないかという考えに基づいて、引き続き、施策を進めていきたいということである。

(委員)

- ・ 住みやすい社会をつくった先に何があるのか、何を目指すのかによって、何をやるのかが変わってくるかなと思っている。

(委員)

- ・ 「シン・ファミリーフレンドリー」については、私も皆さんと同じ意見だが、どちらかというと単身世帯が多い中でも、人と人のつながりをつくることを目指す方が適切なのではないかと思う。
- ・ 5つの情勢変化について、自然災害の対応とあるが、この中に、この夏に深刻になっている暑さと気候変動の話が全く出てこない。暑さは食生活にもつながり、これから広島県は食が豊かな県としてブランド化したいという話にもつながる。農業やまちづくり、生活環境にもつながっていく。数多くの分野につながっていくことであるため、暑さについても自然災害の対応に入れるべきではないかと思う。
- ・ 施策領域について、「中山間地域」とあるが、離島や瀬戸内海は全く出てこない。なぜ中山間地域だけが出てくるかということは少し疑問に思った。

(委員)

- ・ 広島県が掲げている人口減少を喫緊の課題として、今後、5年間で注力する重点項目として若者、子育て、女性、外国人を取り上げられたのは、妥当かなと思っている。他の施策も非常に練られたものであるため、ここからどう施策に落とすかというところは工夫の余地があるが、最終的に経済基盤を確立しないといけないということだと思う。例えば、外国人から見た広島県の魅力や他県から見た広島県の魅力を考えると、例えばウォーターフロントの方に広げた観光地を作るとか、外国人から見ても非常に瀬戸内海が綺麗なので、ギリシャのような観光地にするとか、今まで目をつけてない所の広島県の魅力をもとに、経済基盤をつくるというところに可能性があるのではないかと思う。
- ・ それから、先ほどのファミリーについては、定義の問題だと思う。プロトタイプを示されたので、委員から反発があったが、実際の家族でなくても、家族のように皆がつながって過ごしやすいものを目指すという意味では、今の「シン・ファミリーフレンドリー」の定義はそのままでもいいのかなと私は感じた。定義だけ誤解のないように、しっかり県が示してほしいと思う。

(委員)

- ・ 子育て世帯や若者などに重点を置くことは賛成である。全方向に力を割くことはできないため、家族に注力することは良いことだと思う。家族の定義について、私は意見を言うことはないが、現在、「シン」が「ファミリーフレンドリー」という概念にだけにかかっている。ファミリー自体にも「シン」を受けてしまえば、包括的な多様性を持ったファミリーの表現ができるのではないかと思った。
- ・ 施策領域の「働き方改革・多様な主体の活躍」の取組の方向について、「働き方改革の促進」の名前を変えた結果、この領域の中の文章から「働き方改革」が全くなくなるのであれば、施策領域名についても変更しないとバランスが悪いと感じた。

(委員)

- ・ 何かを尖らせるとバランスが崩れるし、バランスを取るとエッジが立たないので難しい。これまで色々とディスカッションを重ねてきた中で、メインストリームが見えないということが、一番の皆さんの意見だったと思う。個人的にも思っていたことであるため、そこに挑戦されているという意味でいけば、ワーディングはまだ検討時間が数ヶ月ある中で、調整していく必要はあると思うが、一番の課題は何と捉えて、それに向けて何に取り組むのかというところを、ビジョンに掲げることには、個人的には賛成である。
- ・ 人口減少、転出超過等による地域の担い手が減っていくということに対して向き合った時に、我々は何をするのかという中で、「シン・ファミリーフレンドリー」という言葉が使われたと認識している。ただ、「シン・ファミリーフレンドリー」というキーワードはすごくエッジを立てていただいているが、その下の項目の表現において、網羅性というか、平等性に考慮されることによって、エッジの利いた言葉をあえて下の項目に落とされている。例えば、共育てを下に落としているみたいなのが、逆に「シン」の意味が分からなくなることにつながって、昔のものを取り出してきているというような印象につながったように思う。これは、やればやるほど反対も出ると思うのですが、何が「シン」なのかを、上位項目の言葉に上げてきて、「シン・ファミリーフレンドリー」と言うのであれば良いのかなと思う。例えば、「ファミリー」であれば、家族の形態とか、女性応援とか、そういったキーワードの背景にあるのが、昭和の片働き・片育て、平成の共働き・片育てに対抗して、令和の共働き・共育てがあると思う。そういうその時代の変遷を作っていくことによって、女性が主に転出してしまっているという現状、地域の課題にしっかりと向き合っていくのだということだと思う。
- ・ そういった新しい時代を作っていくという要素がもう少し見えるような表現や、「シン」というのであれば、ジェンダーダイバーシティ、いわゆる同性婚や同性パートナーなども含めた「ファミリー」に上げるとか、「シン」の部分をもう少し上位概念にすることによって網羅性ではないが、一番の課題に対して何を打とうとしているのかが伝わるのではないかと感じた。
- ・ 先ほどご意見のあった中で、「つながり」という言葉は私もすごくいいなと思った。例えば、「シン・広島ファミリーフレンドリー」として、「皆、広島のファミリーだよ」というメッセージはどうだろうか。「広島」が入るだけで、いわゆる単一の家族のことを言っているわけではないとなるのかなと思った。

(委員)

- ・ 少し視点を変えて、医療の立場で2点、追記していただきたいことがある。施策領域について、「健康」の取組の方向の「がんなどの疾病の早期発見・早期治療」で一番重要なのは予防であるため、禁煙を含めて、がんなどの疾病の「予防」という文字を入れていただきたい。
- ・ また、「医療・介護」の取組の方向の「福祉・介護人材の確保・育成・定着及び生産性の向上」で、今は医療も介護も垣根がなくなっており、両方が地域包括ケアシステムに入って、医療も介護も人材不足が続いているため、福祉・介護に医療も加えていただきたい。

(委員)

- 共育てという概念を広める必要がある。共育てといわれても、何も共感をしなければ、「そうですか」としか思われなため、もっとアクティブに広めた方がいいのではないかと非常に思った。

(委員)

- 「シン・ファミリーフレンドリー」には、大きな課題があると思うが、これまでの指摘とは違った視点から申し上げる。目指す姿をベースにして、今後5年間に向けて改定する背景に、特に考慮が必要な情勢変化があったからということになっているかと思う。情勢変化について若者の流出、デジタル技術や関連産業の発展、激甚化する災害など、5つ挙げておられ、それらは共感するし、それらへの対応は本当に重要だと思うが、これについて、どのようにこの改定で反映されたのかが見えれば良いと思う。今は、シン・ファミリーフレンドリーという概念が入ったことによって、かえって取り組まなければいけない課題が見えにくくなっているのではないかなと考えた。課題をどのように解決していくかというロジックに整えていただければ良いかと思う。無理して一つのそのコンセプトを出すことによって、全般的に何も言っていないか、前とあまり変わっていないという形にならないようにしていただければと思う。

(委員)

- コンセプトの打ち出し方について、今まで色々な委員からご発言があったように、コンセプトそのものは理解するが、ワーディングの問題はかなり大きいなと思っていた。加えて、他の委員がご指摘されたように、5つの社会情勢の変化に対して、その後の施策との連動性があまり見えないと思った。この5つの社会情勢の変化について、教育現場で感じる、学生が広島に就職したくないという問題はかなり大きく、これに関しては、広島は住みやすさの問題もあるし、まちの魅力もあるし、産業として自分が長い間しっかり従事したいかどうかという問題もある。そのことを、施策の展開にも噛み砕いて落としてほしいと思う。
- 若い世代に対して、いきなり家族ベースの話をしてもおそらく響かない。そうした時に、一つのキーワードになるのは「基盤」だと思う。若者がここで住みたいと思える基盤が整っているかどうかというところが非常に重要で、色々な施策の中でも、やはり基盤というキーワードがもっと出てくるといいなと思っている。
- 新たな産業を開発することももちろん重要でそれはそれでやるべきだと思うし、今ある生活基盤、既存産業、あるいはインフラを含めた基盤をしっかりと整えるということも重要である。足腰を固めるべきものと、個性を出すべきものというところをもっとメリハリをつけるべきだと感じている。全般的にビジョンの後半が総花的になっているのも気になる。

(委員)

- シン・ファミリーフレンドリーが出てきた時に、「ファミリーだけなのか」と疑問に思ったが、事務局の説明を聞いて、ファミリーを中心に据えて、誰もが暮らしやすい広島県の実現ということで分かりやすくいいなと思った。しかし、今日皆さんのお話と事務局からの説明を聞いて、いわゆる古い標準ファミリーを念頭に置いているのであれば、誤解を招くリスクがあるので出さない方がいいのかなと感じた。
- 「シン・ファミリーフレンドリー」の「シン」は、深化・進展・浸透させるの「シン」という説明を受けたが、最初に「シン」を聞いた時に、新しいファミリーの意味だと思った。そのため、例えば、「新しい」の意味も入れて、古い、昭和時代の家族の概念ではなくて、多様な暮らしのファミリー、ファミリーのように皆がつながる広島といったイメージができると良いと思った。一人でも家族だという概念もあるし、自分とペットであつても家族であるとか、フ

ファミリーの定義がどんどん変わって多様化していると思うので、そういう意味でも「新しいファミリー」の体系として、シン・ファミリーフレンドリーの説明を変えたらいいのではないかと思った。

- また、考慮すべき社会情勢の変化が5つあり、そこからシン・ファミリーフレンドリーが出てくると、そこがつながっているように見えてしまう。見せ方だと思うため、今のように社会情勢の変化とシン・ファミリーフレンドリーを並べるのではない見せ方を工夫されるといいと思う。

(委員)

- 小委員会で色々な意見が出た中で、皆さんから「共育て」という言葉が出てきて、一番の課題として少子化に着目したという経緯だったと思う。バランスを取りつつエッジを立てるところの難しさは、小委員会の中でも皆、感じながら議論してきた。最終的にシン・ファミリーフレンドリーというキーワードが出てきたが、行政ではなかなか出しにくい中、今日のようにイエス／ノーで意見が分かれるようなエッジのあるキーワード、テーマが出てきたということは素晴らしいと思う。マーケティング分野では、箸にも棒にもかからない、なんだか聞いたことある、どこにでもあるような商品名やキャッチコピーは“刺さらない”と言われるように、こうして賛否両論出るぐらいのテーマの方が冒険していいと思う。ただ、皆さんおっしゃるとおり、誤解も招きやすいため、定義についての丁寧な説明が必要だと思うし、「シン・広島ファミリーフレンドリー」とすれば誤解も減り、広島オリジナルの「ファミリー」の定義は、広い意味で捉えてもらえると感じる。

(会長)

- 今回シン・ファミリーフレンドリーが出てきて、皆さんから一般的な家庭のことだけをやっているのではないかという意見もあったが、「単身者や高齢者世帯なども含んだシン・ファミリーということですよ」という説明書きもしてあって、非常に画期的なキャッチフレーズだと思った。委員から意見のあったように、これに「広島」を加えれば、県外に出た人も含めて、広島県の方針に広がりが出てくると思う。

(事務局)

- 様々なご意見をありがとうございました。総合計画審議会のスタート時に、皆さんから今のビジョンが分かりにくいというご意見をいただいて、どのように県民の皆さんに分かりやすく見せていくかということが我々の大きな課題としてあった。また、ビジョンの名前を変えたら他県の計画になるというお話もあり、どうエッジを効かせていくかということも我々の中で議論した。その結果、今回、基本理念から目指す姿、施策の方向性、5つのグルーピング、さらに今後5年間で特に注力する重点項目という体系を整理した。こうした体系は今のビジョンにはないものである。
- 先ほど委員からお話があったが、我々も「シン・ファミリーフレンドリー」には議論があるということを承知でネーミングしている。本日、皆さんから様々な意見をいただいたことは、非常に参考になるため、意見を踏まえてより良いものにしていきたいと考えている。

(委員長)

- 今日、この委員会で皆さんの意見を聞いていると、小委員会では出なかった視点等が多々あったため、興味深く聞いていた。前回、昨年12月に総合計画審議会があった時には、かなり抽象的な議論で、何について議論すればいいのかというところで留まっていたように思う。その後半年間、事務局で色々議論されながら、今日のような形にまとまってきたということは、評価していいと思う。

- ・ 一部個人的な意見もあるが、小委員会での感想をお伝えする。まず、先ほどから議論されているシン・ファミリーフレンドリーという表現について、色々な意見があった。しかし、事務局の説明を聞いた限りでは、非常に重要な視点ではないかということで、小委員会では合意ができたと思う。ただし、その表現の仕方について、従来型の核家族、三世帯世帯というような家族だけではなく、もっと広い意味で、パートナーシップ制度の方々や一人世帯であっても、それぞれ地域社会ともつながりがないとやっていけないはずである。そのあたりも含めて家族そのものの定義、あるいは、シン・ファミリーフレンドリーというプレゼンテーションの仕方をもう少し丁寧にしていく必要があると思った。
- ・ そもそもファミリーの語源として、ギリシャ、ローマ時代の語源の「ファミリア」というのは、伝統的な、今でいう血族的な関係だけではなくて、もっと広い概念であるようなので、シン・広島ファミリーフレンドリーのような、新しいプレゼンテーションの仕方を提示した上で、伝統的な家族だけに捉われず、より幅広い意味での家族、ファミリーという説明ができれば良いのではないかと思った。
- ・ 次に、これまで17の施策領域はただ羅列した感があったが、今回、色々な議論等を踏まえながら5つの柱にまとめられて、大変分かりやすくなったと思う。さらに、17の施策領域と取組の方向性が打ち出されているが、その中で特に重要なものということで5つの重点項目を挙げておられる。シン・ファミリーフレンドリーの中で、今後進めていくための重点項目を取り出したという点では、非常に分かりやすいのではないかと思う。小委員会の自己評価としてご紹介させていただいた。

(会長)

- ・ 色々な意見をいただいたが、シン・ファミリーフレンドリーという考え方は良しとするのかということと、これを良しとする場合には、もう少し分かりやすく、そして皆さんの心を打つような定義をして、この方向でやっていこうということ（を明確にすること）が非常に大事だと思う。そういう意味も含めて、方向性を皆さんにご賛同いただければと思うがよろしいか。
⇒ 反対なし。
- ・ それでは、「シン・ファミリーフレンドリー」という考え方を生かしながら、もう少し中身を深めていただくということにしたいと思う。引き続き、事務局の方もよろしく願います。

【今後の審議スケジュール】

事務局から、審議会での意見を踏まえ、今後の素案に反映していくこと、素案の審議にあたって、小委員会及び審議会を11月中旬から12月上旬にかけて開催することについて、資料3により説明。

【その他】

(委員)

- ・ シン・ファミリーフレンドリーも含めて、県民の皆様が知らないことの方が多いと思う。この委員会での議論も、ビジョンの内容も含めて、認知を広げるためには、やはり分かりやすく字や絵、動画などで、多方面に周知をかけて広く知っていただく環境が必要だと思う。我々も色々考えて進めていく上で、認知されない、周知されないというのは非常に大きな課題だと思っている。
- ・ そういった中で、シン・ファミリーフレンドリーは、語弊や誤解を生み、旧態依然とした考え方として勘違いをされる可能性がある。我々の思いはそのファミリーの形ではないということ県民に理解していただくためには、その辺のフォローアップは言葉も必要だが、新しい良い発信の仕方が必要だと思う。
- ・ 今後のことになるが、やはり人口減少が加速している中で、農林水産業を見ると、林業や産

業、農業など、かなり疲弊してきている。広島県が農業高齢化率ワーストスリーであるということ考えた時に、一般の工業等では次の担い手や候補者が出てきていると思うが、農業林水産業では衰退してきているということがリアルにある。そのため、「継続していく」という観点から取組をしていただけたらと思う。

(委員)

- ・ シン・ファミリーフレンドリーについて、広島は誰もが暮らしやすい場所だよねということが分かりやすいため、「いい言葉が出たな」というのが感想である。誰もが暮らしやすいためには、経済基盤だったり、災害対策だったり、それらをカバーする必要があるし、それらは17の施策領域の取組に戻ってくるように思う。シンプルに、「誰もが暮らしやすい」ということが伝わるシン・ファミリーフレンドリーの定義が出てきたらいいと思う。

(委員)

- ・ 緊急の課題である人口減少から、今後5年間で特に注力する重点項目を設定されたのは非常に良い。しかし、今言われたように、災害対策や医療などの土台が背景にあると思う。そうした土台も含めて重点項目を進めていきますよという強いメッセージを広島県が出していくことが、県民が安心して過ごせることにつながると思うので、ぜひ強いメッセージをお願いしたい。

(委員)

- ・ 色々な考え方があると思うが、若者が広島から出ていくことが本当に悪いことなのかと疑問に思っている。東京だとか大都市圏の企業に就職するというのは、まさしくビジョンに書かれている挑戦ではないかと思う。私自身もそうやって外に出たし、周りにもいる。そのため、この認識をどう捉えていくかというところで、社会減少が発生するという事実はあると思うが、それよりも出て行った人が戻ってこない、戻る場所がないなど、そちらの方が問題だと思っており、そこを履き違えてしまうとストーリーがずれてくるように思う。

(会長)

- ・ 今日是一人一人から思いを語っていただき、いい議論ができたと思う。12月の答申に向けて、小委員会の皆さん、事務局の皆さんにおかれては、今日出た意見も参考にしながら、良いものを作っていただけたらと思う。

7 会議の資料名一覧

資料 1 安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン改定の骨子（案）《概要版》

資料 2 安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン改定の骨子（案）

資料 3 今後の審議スケジュール

参考資料1 総合計画審議会意見への反映方法について

参考資料2 第2回総合計画審議会（令和6年12月3日開催）までの意見と対応方針について

参考資料3 総合計画審議会第6回小委員会（令和7年8月21日開催）の審議状況について